

2025 年度 学校経営方針

広島大学附属東雲小学校・附属東雲中学校 校長 永田 忠道

1 学校教育目標とめざす学校像

(1) 学校教育目標：共生社会に生きる主体として自立的・協働的に学び育つ児童・生徒の育成

※ これからの時代(グローバル社会、共生社会)を見据える。

※ 東雲の特長を踏まえる。

(2) めざす学校像：落ち着き・安心・信頼の中でエネルギー（人間性）が発揮できる学校

※ 学校は、子どもが探究心をもって挑戦し、学び、成長するところである。

※ 落ち着きと安心と信頼の中で、子どもはエネルギー（人間性）を発揮し、挑戦と成長を続けることができる。

※ 教師は、教えるエキスパートであるとともに、学びと探究のエキスパートでもある。

※ 「チーム東雲」(One Team, One Shinonome)として有機的・一体的に協働することで、エネルギー（人間性）が最大限に生かされる。

2 附属校としてのミッション

【学校教育】 小学校・中学校としての充実した学校教育、指導的・モデル的な学校教育の創造

【教育実践研究】 現代的教育課題に対応した教育実践研究の推進、大学との連携、研究成果の積極的・継続的な発信等による社会貢献

【教育実習】 次代を担う教員養成・教師教育の充実、教師の専門性向上に関わる機能の充実

3 学校経営の重点方針

(1) 東雲の特長を活かした教育実践研究の推進と研究成果の積極的・継続的な発信

複数の学級形態の児童生徒が共生する東雲小中学校において、学校教育目標「共生社会に生きる主体として自立的・協働的に学び育つ児童・生徒の育成」の実現に資する教育実践研究に取り組み、その成果を、東雲教育研究会、複式教育授業座談会、図書や電子媒体を通して、社会に積極的・継続的に発信することにより、現代の学校教育が直面している課題やニーズに応える役割を果たす。

◇ 研究テーマ「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」の追究

※ 学校教育目標「共生社会に生きる主体として自立的・協働的に学び育つ児童・生徒の育成」の実現に向けて、研究テーマを追究する。

・教科等の特性に応じた児童生徒の見取りを通して、教科等の本質の理解に関する児童生徒の変容と教師の資質能力を関連付ける。（子供と教師の学びと成長を保障する研究として社会に発信）

・附属東雲の特長を活かした学校教育目標のキーワードである「共生」に関わる研究開発の一層の充実と発展を図る。

◇ 異年齢・異学年集団による自立的・協働的な学びの方略の開発に関わる研究の継続・発信、インクルーシブ教育の観点を活かしたユニバーサルデザインの理念に基づく教育方略の開発に関わる研究の継続・発信

◇ 教科横断の在り方についての組織的なカリキュラム開発

※ 教科等本来の魅力に迫る（教科等の本質の理解につなげる）ための教科横断型の授業について、授業

研究を行う。授業研究を通して、教師の資質能力について吟味する。

- ◇ 客観的な評価：複数の学級形態の児童生徒が共生することによる教育効果、各教科・領域でめざす子ども像に向けた児童生徒の変容、教員の資質・能力（アンケートやルーブリックに基づく客観的、横断的・縦断的な評価）
- ◇ 研究力向上のための情報提供：本校の教育研究推進に有効な研修（EVRI のセミナー、広島 SDGs コンソーシアムのイベント等）に関する情報提供・研修内容の共有
- ◇ 研究推進を通して明確化する「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」と総合的業績評価シートとの関連付け

（2）生徒指導体制について

小中統合版の「いじめの防止基本方針」を共有し、あらためて、いじめの定義をはじめ、いじめ問題についての基本的な考え方を小中の教職員で共有し、日々の教育活動においていじめを生まない風土づくり、子供の小さな変化を察知していじめを見逃さない組織づくり、認知したいじめに対して、迅速に、適切に対応するための指導体制、情報共有、報告体制の一層の整備等、いじめの防止と対応に努める。

- ◇ 日常的な児童生徒に関する情報共有・対応
- ◇ 組織的・定期的な情報共有・対応検討の場の設定
- ※小学校と中学校間の情報共有・対応検討の場を定期的に設定し、生徒指導体制の連携・強化を図る。
- ◇ SNS を介したいじめ等、現代のいじめについての認識を深めるための研修
- ◇ 不登校支援にかかわる他機関との連携や他校の SSR の取り組みについての情報収集

（3）社会及び大学との連携

附属東雲の特長及び附属学校園の使命・役割を踏まえ、次代を担う教育実習・教師教育の充実、教師のライフステージや地域の学校のニーズに応じた教員研修機能の充実、広島大学との共同研究の推進、学内外からの研究協力要請及び研修協力要請の積極的な受け入れ、児童生徒及び保護者と地域との連携等に取り組む。

- ◇ 現代的教育課題を踏まえた教育実習の充実（教科横断型授業、英語で行う授業の指導等）
- ◇ 教員研修プランの検討・教員研修機能の充実
- ◇ 学部附属学校共同研究プロジェクトでの研究推進
- ◇ 大学（教員・大学院生）からの研究協力要請及び研修協力要請の積極的な受け入れ
- ◇ 県内外からの研修協力要請（研修講座）や研修教員（長期研修）の受け入れ
- ◇ 国内外の学校や大学・研究施設等からの学校視察等の受け入れ
- ◇ 教職大学院授業科目「海外教育実地研究」への参加・協力（Exploris School での授業実施、院生の授業支援）
- ◇ 教職大学院授業科目「アクションリサーチ実地研究」の実習セミナーへの参加・協力
- ◇ 公立学校とのネットワークづくり（地域の公立学校の研究会・研修会への積極的な参加・協力）
- ◇ 教職大学院との連携に基づくミドルリーダー育成のための研修会の開催
- ◇ 児童生徒及び保護者と地域社会との連携を図る取り組みの充実・発展

（4）「チーム東雲」(One Team, One Shinonome)としての協働的体制の充実

学校教育目標を共有し、目標達成に向けて「チーム東雲」(One Team, One Shinonome)として有機的・一体的に協働できる学校運営体制の充実に努めるとともに、教育実践研究の主題・方略・理念及び小中9年間を通して育む子ども像を共有した教育諸活動を推進する。小中協働の強化を図るための具体的な方策として、小中合同の理論研修会や校内授業研究会等、教育実践研究の核となる取り組みを一層組織的・計画的に実施していく。

- ◇ 小中での日常的な情報（教育課程・行事日程・校務運営・教育諸活動・生徒指導等に関する情報）の共有

と連携

- ◇ 小中の児童生徒合同での学習活動（避難訓練を含む）や児童会・生徒会活動の一層の充実
- ◇ 東雲教育研究会の開催に向けた小中の一体的な取り組み（研究部会・教科等部会を中心とした小中協働の継続・強化）
 - ※ 研究会のみでなく小中の校内授業研究会についての情報を他附属及び近隣の公立学校に発信し、交流を図る。
- ◇ 小中合同の理論研修会や校内授業研究会等、教育実践研究の核となる取り組みの組織的・計画的な実施
- ◇ 海外（姉妹校）との交流の拡大
 - ※ 東雲中学校と Exploris Middle School との姉妹校としての交流を、東雲小学校と Exploris Elementary School との交流へと拡大し、両校の小学校・中学校教員の授業交流および児童生徒間交流を通して、グローバル教育推進に必要な教員の資質能力の向上と児童生徒のグローバルマインドの涵養を図る。
- ◇ 社会・保護者への情報発信（教育実践研究、教育諸活動）：機関誌、HP（東雲 SMILE 等）の一層の充実等
- ◇ 情報発信・活用の状況把握と改善：本校ホームページへのアクセス数、ページ（内容）別のアクセス数の把握に基づく情報発信の改善
- ◇ めざす学校像実現の基盤となる校内研修の充実
 - ※ 「落ち着き・安心・信頼の中でエネルギー（人間性）が発揮できる学校」の実現に向け、いじめ、ハラスメント等に関する校内研修を「チーム東雲」（One Team, One Shinonome）として組織的・計画的に行い、実態の適確な把握、防止、対応に努める。

（５）働き方改革への取り組みの推進

- 附属学校としてのミッション、児童・生徒や保護者にとって魅力的で特色ある学校づくり、教職員の働きがい、業務負担の適正化といった多要素のバランスを勘案しつつ、働く主体としての教職員の意識改革、教育諸活動の点検・見直し、諸会議の効率的な運営、業務の平準化と負担軽減、非常勤講師等を含む人的措置の工夫・改善などの方策を多面的に検討し具体化していくとともに、その効果（改革の実態・変容）を客観的に把握・検証する。
- ◇ 勤務時間を意識した業務の計画的な実施
 - ◇ 業務の効率化・能率化（時間対効果）につながる知恵や工夫の発想・提案・共有
 - ◇ 学校行事を含む教育諸活動の内容・方法等の点検や見直し
 - ◇ 効率的な会議運営（会議資料の精選や事前配布、議案毎の所要時間や終了時刻の明示、説明の要点化や協議の焦点化）
 - ◇ 個人や分掌による業務の平準化のための調整や改善
 - ◇ 業務負担の軽減につながるような環境整備
 - ◇ 休養日や活動時間の適切な設定等に関する部活動の方針及び計画の策定と運営
 - ◇ ICT・学校業務支援システムの効果的な活用
 - ◇ 組織目標（勤務時間外の在校時間を月 42 時間以内とすることを目標として設定）に基づく個人目標の設定、個人の業績評価シートへの具体的記述、改革の実態・変容の客観的な把握

４ 判断と行動のための指針

【人とつながり】を大切にする。

- ☐ 学校は子どもと大人が共に育つ場である。
- ☐ 一人ひとりのよさを認め、よさを学び合う。
- ☐ 「違い」や多様性に対する寛容さを涵養するとともに、「違い」を力に変える。
- ☐ 人や組織のつながりによって安心と新しさが創造され、よい学びやよい仕事ができる。

☐ 学校内外のつながりを充実、発展させる。

【計画と振り返り】を大切にする。

☐ 計画するから、振り返りが意味をもつ。

☐ 振り返りがあるから、評価や改善が可能になる。

☐ ときに計画を変更することをためらわない。

【変化と可能性と伸び代】を大切にする。

☐ やればできると信じ、さらなる高みを目指す努力を惜しまない。

☐ できた瞬間の実感とそれまでの経験や知恵の共有を大切にする。

☐ 授業力・環境構成力・学校経営力などを継続的に高める。

【いのち・ところ・からだ】を大切にする。

☐ 慎重にする。迷った時にはより安全・安心な方で。

☐ 伸び伸びとする。安心と信頼の中で支え合い伸びていくいのち・ところ・からだ。

☐ 自他の生命・人権を尊重し、世界の人々と平和を願い関わり合う。